

公立病院等地域医療連携のための有識者会議報告書（抜粋）
（平成 21 年 2 月 25 日）

圏域別の記載内容

【海部医療圏】

（対象公立病院） 津島市民病院（津島市）
公立尾陽病院（甚目寺町・美和町・大治町・七宝町）

当圏域の南西部地域においては厚生連海南病院、東部地域においては名古屋第一赤十字病院が緊急性の高い救急医療における 365 日 24 時間対応となっている。東部地域においては、救急搬送件数及び地域住民の診療圏から推測すると、名古屋第一赤十字病院と公立尾陽病院を中心に救急体制を充実する方向が望ましく、両病院の連携を一層強化する必要がある。

その場合、公立尾陽病院としては病床削減を視野に入れ、名古屋第一赤十字病院と連携し機能分担を図るため、亜急性期医療を担うことを検討すべきである。

南西部地域においては、厚生連海南病院を中心に救急体制が確保されているが、緊急性の高い救急医療においては厚生連海南病院の受け入れ体制にも限界があることから、複数体制を確保する必要があり、津島市民病院の機能強化を図る必要がある。

また、津島市民病院にあっては、一般救急医療体制の強化を図る必要があることから、厚生連海南病院とのネットワークを検討すべきである。

上記の病院間の連携・ネットワークをより効果的に行うため、必要に応じ、地域の中核的な病院は、大学側と協議を行い、連携する病院への医師の応援体制を確保することが望まれる。

【尾張西部医療圏】

（対象公立病院） 一宮市立市民病院、木曾川病院、尾西病院（一宮市）
稲沢市民病院（稲沢市）

緊急性の高い救急医療については、一宮市立市民病院、総合大雄会病院を中心に確保されている。

一宮市民病院は、「心筋梗塞」における医療機能の充実が求められており、また、地域住民に対して、合併症治療におけるより質の高い医療提供を行うため、県立循環器呼吸器病センターとの統合も視野に入れつつ、連携の強化を図っていく必要がある。

圏域南部における地理的な状況から、稲沢市民病院、厚生連尾西病院の一般救急医療機能の低下を防ぐ必要がある。

稲沢市民病院については、適正病床数への移行を図りつつ、将来的に一宮市立市民病院の機能強化を図った上で、一宮市立市民病院との医師の応援体制も含めた医療機能連携を進める必要がある。

【知多半島医療圏】

(対象公立病院) 半田市立半田病院(半田市)
常滑市民病院(常滑市)
知多市民病院(知多市)
東海市民病院(東海市)

緊急性の高い救急医療については、半田市立半田病院、厚生連知多厚生病院を中心に確保されていると考えられるが、両病院の医療機能強化を図る必要がある。

圏域北部における救急医療の確保を図るため、東海市民病院と知多市民病院の統合を視野に入れた医療機能連携の検討を積極的に進めるべきである。

圏域中央部における救急医療の確保を図るため、常滑市民病院は、適正病床数への移行を図りつつ、一般救急医療体制の確保のため、当面、半田市立半田病院との医療機能連携を進める必要がある。

【東三河医療圏(北部・南部)】

(対象公立病院) 豊橋市民病院(豊橋市) 豊川市民病院(豊川市)
蒲郡市民病院(蒲郡市)
新城市民病院(新城市) 国保東栄病院(東栄町)

緊急性の高い救急医療については、豊橋市民病院、豊川市民病院を中心に確保されていると考えられるが、両病院の機能強化を図る必要がある。

東三河北部医療圏の救急医療の確保を図るためには、東三河南部医療圏の医療機関の連携が必要である。

地理的な状況から、豊川市民病院と新城市民病院の医療機能連携をさらに強化することが必要であり、また、機能分担を進めるため、新城市民病院は、病床数の適正化を図るとともに、一般救急医療を担うことができるよう検討すべきである。

また、豊橋市民病院において、過度の患者集中による救急医療の機能低下を防ぐため、地理的な状況を考慮し、蒲郡市民病院及び厚生連渥美病院等がその機能を維持していくことが必要と考えられる。

特に蒲郡市民病院においては、昨今の医師の減少により、救急対応に支障を生じているため、豊橋市民病院との連携を強化する必要がある。

国保東栄病院は、北設地区唯一の病院であり、一般救急医療体制を維持していく必要がある。